

2022 SUPER TAIKYU Round.1

All Photographs by Noriaki MITSUHASHI, N-RAK PHOTO AGENCY

# SUZUKA



ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook  
第1戦 SUZUKA 5時間耐久レース

2022年3月19日(土) ~ 3月20日(日)  
鈴鹿サーキット (三重県)

## 『意志ある情熱と行動』は仲間たちを加え新たなシーズンへ

『もっといいクルマづくり』、そして2021年第3戦富士SUPER TEC 24時間レースからスタートした、カーボンニュートラル社会実現に向けた『意志ある情熱と行動』。変わらぬコンセプトとともに、ORC ROOKIE Racingの挑戦は2022年シーズンを迎えた。

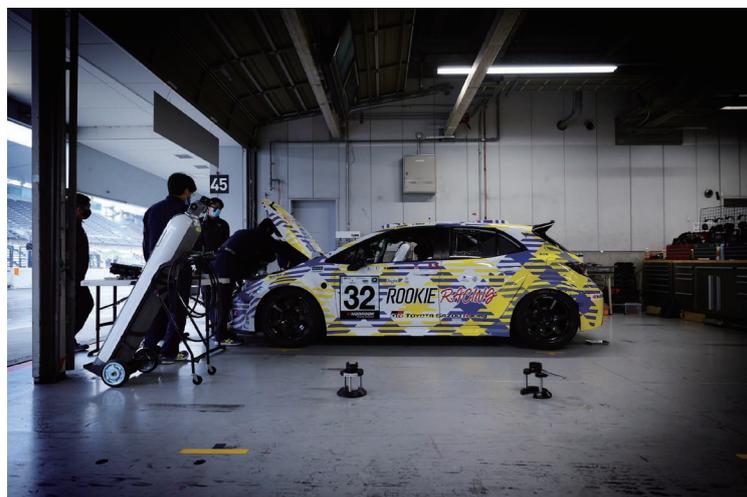
今シーズン、ORC ROOKIE Racingは『STOが認めた開発車両』として参加が認められるST-Qクラスに2台をエントリーさせた。32号車は、水素エンジンを搭載するORC ROOKIE Corolla H2 concept。2021年の富士では約5分かかっていた水素充填時間は2021年最終戦では2分弱、そして今回は将来の水

素利用拡大を見据えた『大流量充填』に挑戦。1分半まで短縮された。さらに燃料噴射を緻密にコントロールすることで異常燃焼を制御し、1回の充填で走行できる時間は約20%向上している。ドライバーはこの車両の開発を当初から担っていた佐々木雅弘をAドライバーに据え、モリゾウ、さらに昨年28号車をドライブしていた小倉康宏、そして初挑戦時にも乗り込んだ石浦宏明が起用された。

一方、28号車は新たにGR86にスイッチ。内燃機関を活用した燃料の選択肢を広げる挑戦としてカーボンニュートラル燃料を使用し、兄弟車であるスバルBRZと争う。ただBRZと中身は同じで

はなく、1.4リッターターボエンジンを搭載。BRZと競い合いながらモータースポーツの現場で鍛えることで課題を発見、改善し、

将来的な実用化の可能性を探る。ドライバーは蒲生尚弥、豊田大輔は継続、新たに大嶋和也と社員ドライバーの鶴飼龍太が加わった。



## 特別スポーツ走行（木）～専有走行（金）

3月17日（木） 天候：曇り/晴れ 路面：ドライ  
3月18日（金） 天候：雨 路面：ウエット



迎えた開幕戦の舞台は、三重県の鈴鹿サーキット。2021年は第5戦として開催されたコースで、開幕としては2019年以来となる。ORC ROOKIE Corolla H2 Concept、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptともに開発テストを繰り返し、2月に行われた公式テストで走行し確認を行ってから第1戦へと乗り込んだ。

走行初日は3月17日（木）の特別スポーツ走行。その週に続いてきた小春日和のなか、この日は

午後0時15分から1時間、午後2時45分から1時間と、合計2回の走行が行われ、ORC ROOKIE Corolla H2 Conceptは佐々木、2回目の走行では小倉、モリゾウがドライブ。小倉は「GRヤリスとの比較になりますが、このクルマは弱アンダーですごく乗りやすいですね。オーバーステアだとジェントルマンドライバーには怖いですが、カローラは乗りやすいクルマです」とここまでのドライブで好感触を得ている様子だった。

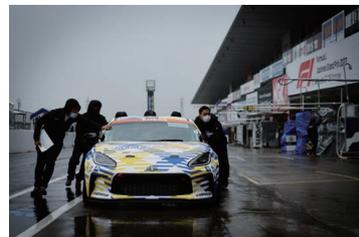
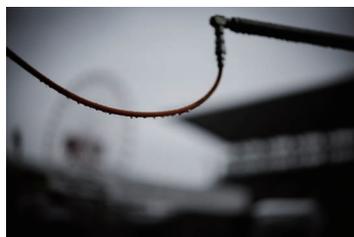
一方で、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptは1回目は蒲生からコースイン。2回目は豊田大輔も乗り込み、周回を重ねていった。公式テストでもドライブしているとはいえ、大輔にとっては2019年にドライブして以来のマニュアルミッション車。「通常のミッションとも少し違う特殊なものなので、それにも慣れなければいけません。クルマの味つけはまではまだまだ」とドライビングの慣れを進めながらも、開発を進めなければならないため、やるべきことは多い。

走行時間は多ければ多いほどいいが、明けて3月18日（金）は午前8時15分から45分間の特別スポーツ走行、さらに午前10時30分からの専有走行、午後2時からの混走の専有走行と用意さ

れていたが、朝から鈴鹿は曇り空。朝の特別スポーツ走行がスタートする直前から、ポツポツと雨が降りはじめってしまった。

3月19日（土）の予選日以降、鈴鹿は晴れる予報が出ていたことから、ORC ROOKIE Corolla H2 Conceptはウエットコンディションでの走行を見合わせるようになった。そのため、石浦宏明は2日間で1周もしないまま予選を迎えることになったが、石浦ほどのドライバーならば問題はないだろうという判断だ。

一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptは今後もあるであろうウエット路面での習熟のため、2回の走行ともに蒲生から大輔、鶴飼へと交代しながら周回し、予選までの2日間を終えた。



## 公式予選

3月19日（土） 天候：晴れ 路面：ドライ

前日は雨だった鈴鹿サーキットだが、明けた3月19日（土）は雲はあるものの、晴天に恵まれた。午前10時40分からのフリー走行はORC ROOKIE Corolla H2 conceptはモリゾウ、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptは蒲生と大輔が走り、午後2時からの予選に備えた。

ORC ROOKIE Corolla H2 conceptはまずAドライバー予選で2分26秒012をマーク。さらにBドライバー予選では、モリゾウが魅せた。2分30秒826

という自己ベストをマークし、しっかりと予選を通過。合算で総合34番手につけた。Cドライバー予選では、石浦がロングランも兼ね8周を周回。週末初ドライブながらきっちり仕事をこなし、Dドライバーの小倉も2分30秒261という好タイムを記録した。

一方、ORC ROOKIE GR86 CNF Conceptはまず蒲生が2分19秒620とST-2クラスを上回る速さをみせるが、Bドライバー予選では大輔がコースインするも、インジェクターにトラブル

が。なんとか2分31秒843をマークし予選通過は果たしたのは不幸中の幸いだった。

チームは早急にトラブルを解決し、Cドライバーの大嶋、Dドライバーの鶴飼ともにタイムを記録することができ、チームはホッと胸をなで下ろした。

ちなみに予選後、今季から参戦を開始したST-3クラスの25号車に携わる日産自動車大学の生徒たちが、ORC ROOKIE Racingのピットに車両見学に訪れた。チームは快く見学に応じ、

その様子を見ていたモリゾウも、日本の移動を支える550万人になるべく、日々学ぶ若者たちに明るく声をかけ、大きな笑顔が生まれた。

スーパー耐久らしい、実に微笑ましいシーンとなった。



## COROLLA

## #32 決勝レース

3月20日(日) 天候: 晴れ 路面: ドライ

3月19日(土)は記者会見も行われ、今季も水素エンジンへの高い関心がうかがわれたが、迎えた3月20日(日)の決勝日は晴天に恵まれ、この日の鈴鹿にも多くのメディア、ファンが訪れた。午前11時40分からのスタートで、ORC ROOKIE Corolla H2 conceptのステアリングを握ったのは石浦宏明だ。序盤、日立 Astemo シケインでST-5クラスのクラッシュが起きたり、デグナーカーブでストップ車両が出たりとアクシデントも多発するが、まったくノミスで淡々と周回を重ねる。スタート直後こそORC ROOKIE GR86 CNF Concept、Team SDA Engineering BRZ CNF ConceptというST-Qクラスの2台が前にいたが、少しずつギャップは開いていった。「2021年の富士以来のレースでしたが、パワーの感覚もぜんぜん違いました。すごい進化を感じました」という石浦は、給水素をこなしながらカメラにも愛想を振りまく余裕をみせたが、「えっ!? もう終わり!? と驚きました(笑)。昨年からの進化を感じました」と給水素時間の短さに驚きな

がらも18周をこなす。スピードについては、次戦以降ST-4クラスが参加した時に「争えるようにしたい」と石浦は語った。

代わってチームメンバーとグータッチをかわし、コクピットに乗り込んだのはモリゾウ。コース各所で接触などのアクシデントが起きるなど、タイトなコースレイアウトの鈴鹿で、車速が異なる車両たちが競い合うレースでは、プロドライバーたちも「怖い」というほどだったが、モリゾウは淡々と、かつハイペースでラップを重ねていく。給水素をこなしながらきっちり21周を走ると、ふたたびピットへ。第2スティントの大役をしっかりとこなしてみせた。

続いてドライブしたのは佐々木。「昨年から継続して良いところはしっかり伸ばし、パワーも出ていましたし、昨年から1秒半アップしたことをしっかりと実感しました。また燃費が上がり、プラス2周走れるようになったことは本当に大きなことです。ドライバーからすれば、2割燃費を伸ばすことはとんでもないことです。目立たないことですが、大きな進歩を感じることができました」とORC ROOKIE Corolla H2



conceptの改善を実感しながら周回を重ねた。

ここまで、ORC ROOKIE Corolla H2 conceptは3人のドライバーがノミスで周回を重ねていった。佐々木も20周を走り、きっちりとその役目を果たすとピットへ。このクルマで初めてレースを戦う小倉にステアリングを託す。

「給水素は行く人と人がたくさんいて、ちょっと恥ずかしいんですけどね(笑)」と小倉は笑うが、ドライブ自体はスムーズそのもの。2021年はより速いGRスーパーでのレースを戦っていただけに、速度域もまったく問題はなかった。きっちりと20周をこなすとピットイン。待ち受けていたのは、今回もアンカーを務めたモリゾウだ。

レース終盤に至っても接触が多く、総合トップ争いも接触がドラマを呼んだ。そんななか、モリゾウは太陽が西に傾くなか、第2スティントを含め合計39周をこなし、ORC ROOKIE Corolla H2 conceptをチェッカーへと導いた。鈴鹿は体力の負担も大きいですが、今回も4人のうち最多のラップをこなしてみせた。

「モリゾウさんは初めての頃に比べても、トレーニングをしてクルマに負けにくいくらい進歩していて、体力も大きく向上していますし、モリゾウさんも小倉さんも自ら乗って判断して、次の世の中、市販車に繋げていく。すごいプロジェクトだと思います」と佐々木はモリゾウの開幕戦を評し、そして改めてORC ROOKIE Corolla H2 conceptのプロジェクトの意義を振り返った。

次戦はやや間隔があくが、ORC ROOKIE Corolla H2 conceptがデビューした富士24時間。1年間の進歩を見せつける、格好の舞台だ。





迎えた3月20日(日)、いよいよ ORC ROOKIE GR86 CNF Concept にとって、初めての決勝レースがやってきた。総合グリッドは34番手。隣の33番手グリッドからは、同じカーボンニュートラル燃料を使う Team SDA Engineering BRZ CNF Concept がスタートを切る。もともとがお互いに切磋琢磨しながら戦っていくプランだったが、さっそく両車の対決がやってきた。前日の予選では、Team SDA Engineering BRZ CNF Concept は GT300 チャンピオンのふたりがアタックを担当。ORC ROOKIE GR86 CNF

Concept にトラブルがなくとも、速さでは叶わなかった可能性が高いが、決勝は別だ。

ORC ROOKIE GR86 CNF Concept のスタートは蒲生尚弥が務めた。スタート直後、しばらくは BRZ が先行し、蒲生がピタリと追う展開。さっそく直接対決のシーンがやってきた。蒲生は「同条件で走ったことがなかったので、しばらくは相手がどんな速さなのかを見ていました」と序盤を戦っていく。しかし、BRZ のスピードを見切った蒲生はこれをオーバーテイク。先行を果たした。

前日にもトラブルがあり、大嶋和也も「時間も足りていないけれど、セッションを追うごとにトライしていければ。レースをやりながら強くしていきたい」と語っていた ORC ROOKIE GR86 CNF Concept だが、この日は序盤から快調。蒲生は33周を走りピットインすると、大輔に交代する。

予選ではトラブルもあり、「走りきれぬでしょうか」と不安もあった大輔だが、「メカニックの皆さん、エンジニアの皆さんが夜遅くまで作業をしてくれていたの感謝しています」と快調にラップを重ねていく。ところが、後方

からはプロの山内英輝選手が駆る BRZ が急激なペースで接近。大輔も抵抗するが、やはりプロのスピードには敵わず、オーバーテイクを許してしまった。

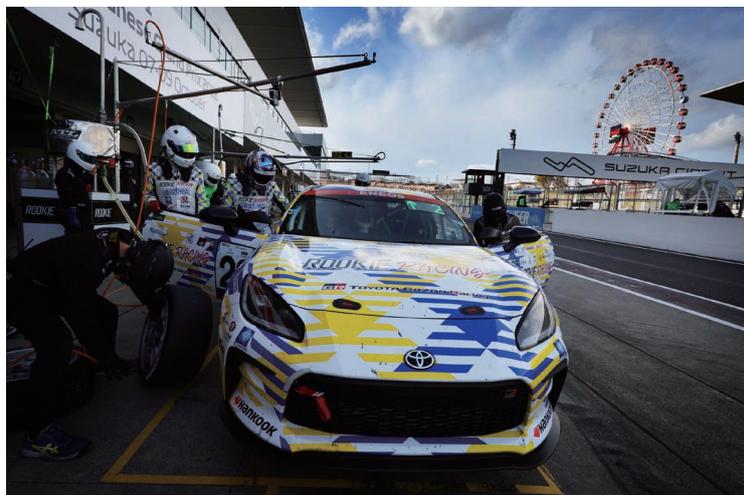
ただ大輔は、このシチュエーションも楽しんでたよう。「これぞモータースポーツですね。ST-Q ではしばらく自分たちとの戦いだったので、ライバルとのポジション争いは懐かしく感じました。正直楽しかったです」と大輔は振り返った。先行を許した大輔だが、しばらくは山内選手の背後につけ「こうやって走るのか」と勉強をしながら走行。驚くことにタイムも上がったという。

大きな収穫を得たスティントを終え、大輔は25周をこなしピットイン。鶴飼に交代する。これまで社員ドライバーながら、別車種でスーパー耐久にも参戦していた鶴飼だったが、「これまでたくさんトラブルもあったなかで、自分は社員ドライバーとして参戦し『モータースポーツを通じたもっといいクルマづくり』に携わり、すごいプロドライバーの皆さん、大輔さんと一緒に走り、レースウィークを通じて性能を共有できたことがいい経験になりました」と

充実のレースを戦っていった。「しっかり走りきり、エンジニアも含めいま持っているクルマのポテンシャルを共有でき良かったです。BRZ とのバトルも通じ、今シーズンはレースを楽しみながら開発ができると思います」

大役を務めた鶴飼からステアリングを託された大嶋は、説明不要のハイペースで最後まで ORC ROOKIE GR86 CNF Concept を導き、115周のチェッカーを受けた。BRZ も同じく115周。今回はこちらが「勝ち」を収めたが、やはり僅差の勝負となった。「今回、初めて5時間を走りきましたが、まだまだ信頼性で言うところ足りないところもあります。おそらく24時間レースをこのまま戦えるかという、できないと思っています。まだ時間があるとは言え、いろいろなアップデートをチーム全体で取り組んでいく必要があると思っています」と大輔は振り返る。

このカーボンニュートラル燃料を使った『もっといいクルマづくり』への挑戦はまだ始まったばかり。目先の勝利よりも、チーム全員がこの先を見据えているのが印象的だった。



## MORIZO's Voice



こうして鈴鹿サーキットで、ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook の開幕を迎えることができました。鈴鹿サーキットやスーパー耐久機構の皆さんに、感謝申し上げます。

昨年、富士 SUPER TEC 24 時間レースで、水素エンジンでの挑戦を始めたとき、我々の仲間たちは 8 社でしたが、今回、22 社にまで増えました。

『意志ある情熱と行動』——。この想いに共感いただいた仲間の皆さまに、心から感謝申し上げます。

スーパー耐久シリーズは、プロ、ジェントルマンドライバー、メカニック、エンジニアが一体となって戦う耐久レースです。市販車に近い状態で、クルマと運転技能を高め合っています。

2021 年、水素エンジンカローラと GR スープラが ST-Q クラスで開発を進められ、スーパー耐久が注目され、日本のモータースポーツ文化の裾野がもっと広がっていくことを期待しています。

プロドライバーがさまざまなクラスで活躍することもスーパー耐久の魅力ですし、プロ、ジェントルマンドライバーに関わらず、全員が運転大好き、クルマ大好きなメンバーです。

今年もスーパー耐久らしく、乗る人も作る人も、観る人も楽しめるレースにしていきたいと思っています。

そんな 2022 年の開幕戦で、2 台が完走することができました。皆さまのおかげです。しかしこの戦いは、まだ始まったばかりです。1 年間、みんなが笑顔で健康で、そして“ワンチーム”で戦っていききたいと思います。

今シーズンもご声援、よろしくお願ひ申し上げます。

## 2022年第1戦鈴鹿 リザルト

### 3月18日 スーパー耐久 STEL 専有走行1回目 Gr.2 結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time	Laps
1	3	ENDLESS AMG GT4	2'27.210	12/12
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'38.697	5/13
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'42.248	5/7

### 3月18日 スーパー耐久 STEL 専有走行2回目 Gr.2 結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time	Laps
1	3	ENDLESS AMG GT4	2'27.484	5/14
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'34.392	4/32
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'36.899	13/28

### 3月19日 スーパー耐久 フリー走行 結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time	Laps
1	3	ENDLESS AMG GT4	2'11.844	11/22
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'23.578	4/20
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'24.697	13/22
4	32	ORC ROOKIE Corolla H2 concept	2'31.479	8/10
5	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA2 Bio concept	2'35.095	7/20

### 3月19日 スーパー耐久 Aドライバー予選 結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time	Laps
1	3	ENDLESS AMG GT4	2'10.155	3/5
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'19.620	4/5
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'21.605	3/4
4	32	ORC ROOKIE Corolla H2 concept	2'26.012	3/4
5	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA2 Bio concept	2'32.373	5/6

### 3月19日 スーパー耐久 Bドライバー予選 結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time	Laps
1	3	ENDLESS AMG GT4	2'10.402	3/4
2	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'22.806	4/5
3	32	ORC ROOKIE Corolla H2 concept	2'30.826	7/8
4	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA2 Bio concept	2'31.241	3/4
5	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'31.843	3/4

### 3月19日 スーパー耐久 公式予選結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	3	ENDLESS AMG GT4	4'20.557
2	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	4'44.411
3	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	4'51.463
4	32	ORC ROOKIE Corolla H2 concept	4'56.838
5	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA2 Bio concept	5'03.614

### 3月19日 スーパー耐久 Cドライバー予選 結果 (ST-Q)

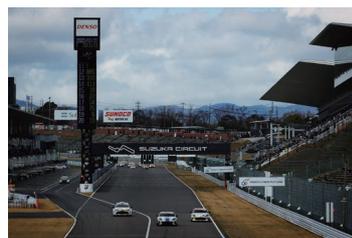
Pos.	No.	Car Name	Best Time	Laps
1	3	ENDLESS AMG GT4	2'12.639	2/8
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'22.344	4/4
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	2'27.875	7/8
4	32	ORC ROOKIE Corolla H2 concept	2'28.148	4/8
5	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA2 Bio concept	2'32.108	3/4

### 3月19日 スーパー耐久 Dドライバー予選 結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Best Time	Laps
1	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	2'23.670	6/8
2	32	ORC ROOKIE Corolla H2 concept	2'30.261	5/6
3	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA2 Bio concept	2'36.077	5/8

### 3月20日 スーパー耐久第1戦鈴鹿 決勝レース結果 (ST-Q)

Pos.	No.	Car Name	Laps	Time	Gap
1	3	ENDLESS AMG GT4	125	5:02'07.737	
2	28	ORC ROOKIE GR86 CNF Concept	115	5:01'55.449	10Laps
3	61	Team SDA Engineering BRZ CNF Concept	115	5:02'58.484	10Laps
4	55	MAZDA SPIRIT RACING MAZDA2 Bio concept	108	5:03'39.515	17Laps
5	32	ORC ROOKIE Corolla H2 concept	97	5:01'44.355	28Laps



## 2022年第1戦鈴鹿 データ

### 28 ORC ROOKIE GR86 CNF Concept

●ドライバー別周回数/タイム

Driver	Lap	Best Time
蒲生尚弥	33	2'24.184
豊田大輔	25	2'25.925
大嶋和也	28	2'23.308
鶴飼龍太	29	2'25.022

●総走行距離

667.805km (115 周)

### 32 ORC ROOKIE Corolla H2 concept

●ドライバー別周回数/タイム

Driver	Lap	Best Time
佐々木雅弘	20	2'28.601
モリゾウ	39	2'32.654
石浦宏明	18	2'29.261
小倉康宏	20	2'31.555

●総走行距離

563.279km (97 周)

●5時間の内訳

走行時間 :  
ピット時間 :  
水素充填時間 :

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

